

平成 28 年 4 月 22 日

参議院議員 豊田としろう 様
豊田としろう後援会事務所 御中

社会福祉法人 翠耀会
特別養護老人ホーム グルーンヒル
特別養護老人ホーム グリーンヒル八千代台
常務理事 津川 康二

熊本県等震災における被害状況と支援関係に関する私見

日頃より、高齢者の福祉介護の関しまして、ご理解、ご尽力を賜り感謝いたします。
また今回は、4月26日に予定と伺いました、国会での国土交通大臣に直接ご質問をされる際に、本件に関して私へ声をかけていただき恐縮です。先生の今後のご活躍をさらにご期待いたします。

さて、表記に関しまして、以下のとおり、あくまでも17日未明より滞在する私見として、専門の福祉に関してご報告いたします。ご参考にいただければ幸いです。

○地震の状況

14日午後21時過ぎの地震は、私は地元の千葉に在住、テレビでその事実を知りました。

16日未明、正式には午前1時26分の震度7を超える地震は、その後地元熊本からの電話にて知りました。そのため16日夜中に千葉を車で出発し、17日未明に熊本県荒尾市に到着しました。報道とおり、18日月曜日朝方までは、余震400回にちかいと伺いましたが、翌19日550回、そして昨日20日朝の段階では累計700回を超える余震、震度3以上が100回を数えることを報道でしりましたが、事実、そのように頻繁に揺れを感じる状況です。同時に5年前の体験から、横揺れより、縦揺れ、特に下からドスンとくる地震の特徴を感じています。

○介護を要する高齢者への支援状況

私が、車にて17日未明に熊本県荒尾市にある、特別養護老人ホーム白寿園を訪問し、すくなくながらも支援物資をお渡ししたように、この施設は熊本県の北側に位置し、近隣では玉名市等の被害が報告されました。が、この施設は特段とした被害が幸いにもみられなかったことや、この施設の施設長が、熊本県の老人福祉施設協議会会長であったことより、いまでも、全国の約8000か所の特別養護老人ホームより、16日早々より多くの支援物資が搬入され、必要とされる施設への物資の運搬、かつ必要な施設の方々が、取りにこられていると伺いました。園長である鴻江圭子先生には感謝しかありません。

一部の特養の実態からの報告によれば、熊本市を中心に広範囲に、当時停電、かつ水道の停止、そしてガスの停止となり、ライフラインがとまったことでの被害が多かったと伺います。18日の午前には電気が復旧(但し、益城町、阿蘇地域の状況は除く)、但し熊本市内ではいまだ水道の復旧が困難な地域もあると伺います。同時にガスの復旧は未だ未確定で、プロパン使用は可能ですが、その他例えば、地元西部ガス等は復旧が見えていない状況です。

物資に関しては 食品、カップめん、米、缶づめ類、水、おむつ、栄養食品、おむつふき、介護用手袋、また紙皿、コップ、割りばし、ペーパータオル、消毒用アルコールなどなどがすでに近県を中心に震災直後から搬入されていたようで、多くの方々から助かったと伺いました。現在も全国の仲間より搬入中。千葉県も県としてすでにその搬送手続きを行ったところ です。

但し、在宅の高齢者で、自宅の瓦のくずれ、屋根のくずれ、その他自宅内のくずれ、またその他多くの理由で避難所で避難された方々は多くおられます。(報道では18日時点で12万人が被災で避難所、20日時点では10万人前後と伺います)

この災害での在宅高齢者の実態は、私の75歳ひとり暮らしの母親をみても、現状は、在宅復帰に向けた支援より、周知のとおりまずは避難し、避難所内での支援が現状と感じます。

○ライフラインの実態

詳細は熊本県、熊本市へ確認いただきたいと思いますが、市内だけでも、上記したとおり、電気の復旧はみられますが(但し、益城町、阿蘇地域は除外)、21日現在でも、水道の復旧は難しい状態のようで、熊本市などは20日に全域に配水といった発表状況でしたが、途中水漏れ、配管こわれなどで、私の自宅も水圧がひくく、いまだ断水状況です。市内で水道がとおったという声と、「すぐそこは通ったが、うちはまだだ。」といった感じです。

ガスも上記とおり、特に私の実感では、熊本市から南側等、益城町にちかい地域は特に、震災の影響また継続した地震により復旧していない状況です。

○今後の支援で考えられること(但し、益城町、阿蘇地域など、甚大なる被害と思われ現在も自衛隊等の主たる活動拠点は除く。*但しこれらの甚大なる被害が想定される地域も下記に示した内容は共通とも言える)

まず特別養護老人ホームですが、現状、水道復旧等の困難な場所があれば、早急なる復旧と、必要に応じては5年前同様、自衛隊等の給水支援をお願いしたい。

衛生環境のいち早い整備は大切なポイントで、そのことにより、トイレ、お風呂、介護に

必要な衛生処理、かさねて食事衛生の確保ができる。二次被害となる、特に高齢者は虚弱であり、体力も低下ぎみ、感染症や二次被害想定への対応を医療をふくめ期待したい。そのため、支援物資に関しては、現場より、特に水をはじめ、衛生管理として、おしりふき、ウェットティッシュ、衛生的な手袋(使い捨て手袋で可能)の必需品の不足が、介護を要する方々のケアにかかわることと伺っている。食品等が足りているかどうかは不明であるが、ケアを重んじる特別養護老人ホームで、介護を要する高齢者と関わる介護のプロの意見であり、重要と考える。

周知のとおり、平成 27 年 4 月より、厚労省は、特別養護老人ホームの入所基準を原則要介護度 3 以上、かつ介護報酬体系からは、実質要介護度 4、5 のみの利用増加が実態である。そのため、これまで病院などの医療機関で入院された方々も、特養に入所し、医療保健ケア(cure)との連携を継続しながら、生活をされている方々も多くなっている。医療的な物品関係なども視野において現場の声に耳を傾けていただきたい。

次に在宅の高齢者であるが、介護を要する方々の支援は、行政との連携のうえ、法人、事業所、各担当が、自身に与えられた時間を超えて、被災後も、取組、安否確認や、被災状況をふまえ取り組んでいると確信している。(5 年前の経験から)。働く職員の方々の話は次にするが、現状熊本県、熊本市での高齢化率は約 30%と約 25%と考えられるが、高齢化率の高い地域での被災をはじめ、数字では計り知れない実態があることに懸念している。例えば、高齢者の単独世帯、高齢者のみの世帯など、千葉県八千代市でも高齢者人口の半数を超えた数字が確認できる。その方々が現在、被災した自宅を離れ、余儀なく避難所での生活をされているわけである。

私ごとであるが、腎臓病を患い在宅生活を営んでいる 75 歳の母が単身で熊本市内に在住し、16 日未明の地震で、室内でタンスやモノ、ガラスなどが横転また散乱、かつ屋外は瓦がくずれ、屋根がくずれ、その影響から玄関が半壊するなど、どうにか単身で逃げ去り、近隣公園で地域の方々に助けられた状況である。運よく私のような息子でも、親戚でもいれば、その後清掃、かたづけは可能であるが、単身かつ高齢者のみの世帯では、本来復旧は難しく、自宅へ帰りたくても帰れない実態が各避難されている小学校、中学校等でも伺うところである。単身かつ高齢者世帯に限ったことではないが、すでに厚労省、県ならびに市の高齢者施策でも、指摘されており、十分な気配りが必要と感じている。そのような視点を大切に、行政を中心に、地域の方々、事業所、そしてボランティアのみなさんとの協力が大切と感じている。

次に、上記した現場で、介護を要する方々の介護、看護で働くまたそれを補助また支える多くの職員のことである。

周知のとおり、たすけあい精神から、震災直後から、各職員は意欲と情熱をもってこの震

災に立ち向かうかのようにはたらし続けている。20日訪問した、熊本市内の特養パウラスホームなどで現場で伺うと、すでにそのような声があがっている。特に上長は、未だ余震が続く混沌とした中、長期化を踏まえた職員等の健康等の心配を抱えており、かつ職員も被災者である認識のもと、長期的な視点での理解、対応を願いたい。多くの介護を要する高齢者をケアするのは、これら大切な職員たちであり、職員等がダウンすれば高齢者も共倒れする危険性もあることを重ねてご理解いただきたい。

そのため、行政、地域との連携は不可欠である。特に地域の方々ですでに積極的に活動されている福祉関係者をはじめ、その方々からの地域の輪を、積極的に協力依頼いただき、その町にあった展開を共同できるシステムを期待したい。当然、期待するために予算の確保をいただきたい。具体的な記述は避けるが、例として集会所の賃借、会議費、また軽い飲食なども地域の実態として、目的さえ明確であれば活用いただき、多くの方々が助け合うひとつの道筋と思っています。

もうひとつ余分かもしれませんが、こういうピンチな時こそ、このように頑張っている介護や看護の職員などを激励いただきたい。また声をあげてその働きをご紹介いただきたい。誰しもが高齢となり、介護が必要となり、そのために介護保険制度は創設されたはずです。被災のなかで懸命に働いている職員に激励を、そして多くのかたがたに知っていただき、すばらしい高齢化社会が構築されていくことも期待します。

次に、5年前私が働く千葉県八千代市の特別養護老人ホームグリーンヒルでは、当時震災の影響で、ボイラー、浄化槽、また照明等が破損し、稼働停止の中、計画停電も経験し、多くのご利用者また働く職員に苦勞を掛けました。現時点で計画停電の必要性は二度とこないと信頼いたしますが、いち早く特養ホームなど、公的な施設などの被害状況を把握し、復旧に力を貸していただきたい。先ほど特養白寿園では特段の被害はないのではと申し上げましたが、そのような事実は確認できておらず(あくまでも救援物資を届けた際の話)、少しでもご利用者のために、被害があったものは早急に対応いただきたい。記憶に間違いなければ5年前、当初は3分の2補助であったものが、最終的には政治的決断で4分の3へと変更された。補助の増額はうれしいが、現場が混乱することなく迅速なる対応を願います。同時にわれわれ社会福祉法人など、補助の申請等に普通の方々より長けているもの以外の、先に述べた多くの被災を受けた被災者への補助も、国庫負担をはじめ、申請方法ができるだけ、簡潔に、明確にアナウンスいただき迅速なる市民サービスに徹底されることをお願いいたします。

最後に、私の故郷である熊本は、肥後もっこすと呼ばれたり、熊本の女性のたくましさを表現されると同時に、熊本城、阿蘇山、天草などなど多くの観光地があり、たくさんの観光客のみなさんに喜んでいただける故郷でもあります。しかしながらこの震災はいまだ余震が続き、市民生活に不安をもたらしていると共に、風評被害をはじめ観光客の減少など、

心配視される点も、周知のとおりです。私は福祉のプロであり、国土交通の未来など見通すことはできませんが、豊田先生が、故郷千葉、八千代市を大切にされるように、是非ともいち早い復興に向けた国土交通としての対応を願うばかりです。今週早々に一部区間の列車が開通した、また本日熊本～博多間のバスも運行を始めたとも伺います。その中一番うれしかったことは、熊本市内を走る路面電車でもありました。早い復旧にご尽力いただき、感謝します。重ねて是非ともその他交通機関、交通ルートの確保、復旧に向けいち早い対応に期待いたします。

被災された多くの方々の中で一人でも多く、いちはやく笑顔と希望がもてる取り組みをお願い申し上げ、わたしの意見をまとめいたします。被災地の中、知り合いよりパソコンをお借りし、急ぎょ作成しましたので、乱筆乱文はお許しいただければ幸いです。よろしく願い申し上げます。

避難地 熊本県下益城郡美里町(旧砥用町)より